

## 戦後歴史教育史における『社会科歴史』(1951～1954年)

梅野 正信

### 1. 『日本の成長』

敗戦時、国民学校では第5学年及び第6学年で国史(国民科)の授業が行われていた。しかし1945年12月31日、GHQによる覚書「修身、日本歴史及び地理ノ授業停止ニ関スル件」により「司令部ノ許可アル迄再ビ開始セザルコト」とされ、1946年9月5日、文部省著作教科書『くにのあゆみ』発刊と「国史の学課再開について」(10月12日/GHQ)をもって授業再開となった。『くにのあゆみ』は古代を家永三郎、鎌倉から桃山までを森末義彰、江戸を岡田章雄、明治以降を大久保利謙が執筆し、他にも旧制中学校用『日本の歴史』(10月19日)、師範学校用『日本歴史』(上巻1947年1月20日/下巻2月20日)が発刊された。その後、1947年4月からの新学制では、国史は中学校2、3年のみの開設となり、当座の措置として国民学校用『くにのあゆみ』を使用する(1947年6月16付文部省通牒「新制中学校の国史教科書について」)ことになったのだが、とはいえ『くにのあゆみ』は新教科社会科と密接に関係する歴史教科書としての内容を備えていなかった。このため文部省は、1947年11月13日、中等国史教科書編纂委員会を設置する。

中等国史教科書編纂委員会の初会合と最終会合期の委員構成は下記のとおりである。表中左列の1947年11月13日の名簿は1947年11月13日付のGHQ/SCAP CIE RECORDS/Report of Conference、右列1949年2月8日の名簿はボウルズ文書から確認したものである<sup>1</sup>。

1947年11月13日(文部省)	1949年2月8日(茗溪会館)
深谷博治(早稲田大日本史講師)	深谷博治(早稲田大学教授)
井上光貞(東大文学部国史助手)	井上光貞(東大助教授)
川畑辰二(目黒第四中学校)	川畑辰二(目黒第四中学校)
小平忠(板橋赤塚小学校)	小平忠(板橋赤塚小学校)
児玉幸多(学習院)	児玉幸多(学習院歴史学)
松島榮一(東大史料編纂所)	松島榮一(東大史料編纂所)
森末義彰(東大史料編纂所)	森末義彰(東大史料編纂所)
岡田章雄(東大史料編纂所)	岡田章雄(東大史料編纂所)
尾鍋輝彦(成城高校)	尾鍋輝彦(成城高校)
長田淑子(文京第九中学校)	長田淑子(文京第九中学校)
小沢正江(杉並区杉森中校長)	小沢正江(杉並区杉森中校長)
菅野二郎(豊島中学校)	菅野二郎(文京高校)

<sup>1</sup> 国立国会図書館所蔵GHQ/SCAP Records CIE Report of Conference Box. 5157-CIE-C-00396-1947. 11. 13

鈴木幸子(順心中学校港区) 高橋礪一(暁星中学校) 外村久江(東京第一師範) 遠山茂樹(東大史料編纂所) 和歌森太郎(東京文理科大学日本史助教授)	乗松幸子(順心中学校港区) 高橋礪一(前暁星中学校) 外村久江(東京第一師範) 遠山茂樹(東大史料編纂所) 和歌森太郎(東京文理科大学教授) 赤木志津子(青山学院) 三上次男(東大東洋文化研究所)
勝田守一(文部省教科書局) 小西四郎(文部省教科書局) 岸重郎(文部省教科書局)	大島文義(文部省教科書局編纂課長) 勝田守一(文部省教科書局編纂課) 箭内健次(文部省教科書局編纂課) 小西四郎(文部省教科書局編纂課) 岸重郎(文部省教科書局編纂課) 渡部是(文部省教科書局編纂課)

中等国史教科書編纂委員会は、1948年の秋頃に編纂作業を終えたが、結果的に日本史教科書を刊行することはなかった<sup>2</sup>。委員は教科用図書検定基準(1949年2月9日文部省告示)歴史分野を担当し、何人かは学習指導要領の改訂作業に関わった。勝田守一、高橋礪一、松島榮一が一般社会、小西四郎、菅野二郎、箭内健次が日本史、尾鍋輝彦、箭内健次が世界史の編纂に参加している<sup>3</sup>。

他方、和歌森太郎は委員会の経験<sup>4</sup>をもとに戦後最初の中学校用日本史教科書『日本の成長』を執筆した<sup>5</sup>。『日本の成長』(1950年12月25日印刷 1951年1月5日発行)の本文扉には「この本は、教科書として発行されたものではありませんが、内容は、文部省検定済のものと同じものであります」と記されている。

『日本の成長』は、新制中学校日本史教科書としては例外的に他の教科書に先駆けて<sup>6</sup>、

<sup>2</sup> 梅野正信『社会科歴史教科書成立史』日本図書センター、2004年。

<sup>3</sup> 松島榮一「社会科と歴史教育」『社会科教育のあゆみ』小学館、1959年、p.70。

<sup>4</sup> 長坂端午は、委員会の教科書が「原稿の概要は、この副委員長だった和歌森太郎の『日本の成長』(実業之日本社)などから推測できよう」(長坂端午『現代歴史教育』、葵書房、1964年、p.425)と述べ、松島榮一も「和歌森さんの本(教科書)も必ずしもそれは我々がやったというのではないけれども、和歌森さんもその時の経験を教科書に生かそうというふうに努力された」(「歴史教科書とその時代(1)」『季刊歴史教育研究』19、1961年、p.11。及び「歴史教科書とその時代(2)」同20、1961年、p.5)と指摘する。

<sup>5</sup> 日本史教科書の執筆者の中には、『くにのあゆみ』、『日本の歴史』、『日本歴史』の執筆者や中等国史教科書編纂委員会委員であった者も少なくなかった。『私たちの日本史』は和歌森太郎、『中学生の歴史』では執筆者4人とも、『育ちゆく日本』では菅野二郎、『中等日本史(全)』の小西四郎、『育ちゆく日本』の菅野二郎、『中等日本史』の小西四郎、『中学生の歴史』の児玉幸多、井上光貞、箭内健次が、いずれも中等国史教科書編纂委員会の委員であった。

<sup>6</sup> 佐藤伸雄は「文部省は、国定教科書を編纂中であったため最初は歴史の教科書にかぎって検定をうけつけず、他教科よりも一歩おくれて51年度からは準教科書、52年度からは正式の教科書として使用されることになった。この戦後最初の日本史の検定教科書が、(中略/梅野)和歌森の『日本の成長』(実業之日本社)と、小葉田淳を代表とする東京文理大歴史研究会編『私たちの歴史』(愛育社)である」と説明する。(佐藤伸雄「戦闘的リベラリストとしての歴史教育者」『和歌森太郎著作集13』弘文堂、1982年、p.581)

戦後最初の新制中学校用社会科歴史教科書<sup>7</sup>となった。

準教科書が使用された1951年度を経て、1952年度からは、正式に検定教科書<sup>8</sup>が使用された。『日本の成長』<sup>9</sup>もまた1951年7月23日に文部省の検定を通過し引き続き使用された。

## 2. 『社会科歴史』

『社会科歴史』は、『日本の成長』の交流誌として教科書と同じく実業之日本社から、創刊号(1951年4月)から休刊(実質的には廃刊)号(1954年10月)までの37号が刊行された<sup>10</sup>。以下は巻頭言のタイトル・執筆者及び編集後記の執筆者である。

発行年月	巻号	巻頭言のタイトル	巻頭言 執筆者	編集後記 執筆者
1951年4月	1-1	創刊のことば	和歌森	和歌森
1951年5月	1-2	歴史教育の効果	和歌森	和歌森
1951年6月	1-3	歴史と体験	和歌森	和歌森
1951年7月	1-4	歴史観の問題	和歌森	和歌森
1951年8月	1-5	現実からの脱却	和歌森	和歌森
1951年9月	1-6	いわゆる歴史常識について	和歌森	和歌森
1951年10月	1-7	指導者待望?	和歌森	和歌森
1951年11月	1-8	社会科のゆくえ	和歌森	和歌森
1951年12月	1-9	愛国の歴史教育	和歌森	編集後記・無
1952年1月	2-1	「日本人として」	和歌森	和歌森
1952年2月	2-2	歴史教育の技術と教材	和歌森	和歌森

<sup>7</sup> 『日本の成長』のほかにも、少し遅れて、小葉田淳、和歌森太郎、芳賀幸四郎、桜井徳太郎、大山日出夫、甲元武士、長野正、竹田旦、福地重孝らによる『私たちの日本史』(愛育社1951年)が準教科書として使用を許可された。

<sup>8</sup> 1952年度より1954年度の間に関刊された中学校社会科歴史検定教科書は、1952年度に『日本の成長』(上下巻、和歌森太郎、実業之日本社)、『日本の発展』(和歌森太郎、実業之日本社)、『私たちの日本史上下』(東京文理科大学歴史研究会、愛育社)、『中学日本史』(坂本太郎・家永三郎、学校図書)、『中学生の歴史』(児玉幸多・大久保利謙・井上光貞・箭内健次、日本書籍)、『日本のあゆみ』(東京大学文学部内史学会、山川出版社)、『中学日本史』(小沢榮一・佐野正則、清水書院)、『中学新日本史上下』(新歴史教育研究会、日本教育図書)、『育ちゆく日本上下』(藤井甚太郎、菅野二郎、フェニックス書院)の9種、1953年度から、『私たちの歴史』(広島史学研究会、柳原書店)、『中等日本史全』(小西四郎・家永三郎、三省堂)、『日本のあゆみ』(大阪学芸大学社会科研究会、星野書店)の3種が加わり、1954年度から、『新しい日本史中学校用全』(東京書籍、西岡虎之助・海後宗臣・村川堅太郎)が加わって計13種となる。

<sup>9</sup> 『日本の成長』および改訂版『日本の発展』は、1956年1月検定(いわゆる「F項ページ」)により不合格となる。

<sup>10</sup> 1951年6月号(1-3)の編集後記に「印刷部数一万部」と記載されている。

1952年3月	2-3	歴史は経験の累積	和歌森	和歌森
1952年4月	2-4	いわゆる歴史の批判について	和歌森	和歌森
1952年5月	2-5	社会的責任感の培養	和歌森	編集後記・無
1952年6月	2-6	憲法と歴史	和歌森	和歌森
1952年7月	2-7	独立の歴史教育	和歌森	和歌森
1952年8月	2-8	地方史研究の態度	和歌森	和歌森
1952年9月	2-9	革新と反動	和歌森	和歌森
1952年10月	2-10	歴史科独立論の背景	和歌森	和歌森
1952年11月	2-11	見てきたように	和歌森	和歌森
1952年12月	2-12	反米思想の逆効果	和歌森	和歌森
1953年1月	3-1	社会科歴史の改訂について	和歌森	和歌森
1953年2月	3-2	"前向き"の歴史教育	和歌森	和歌森
1953年3月	3-3	もしも自分だったら	和歌森	和歌森
1953年4月	3-4	おとながもてなかったものを	和歌森	和歌森
1953年5月	3-5	歴史好きのタイプ	和歌森	和歌森
1953年6月	3-6	修学旅行	和歌森	和歌森
1953年7月	3-7	歴史から現実の課題を	和歌森	和歌森
1953年8月	3-8	大人からか子どもからか	和歌森	森清
1953年9月	3-9	社会科歴史の再出発	和歌森	森清
1953年10月	3-10	水害問題は歴史か地理か	和歌森	森清
1953年11月	3-11	知識よりも問題意識から	和歌森	森清
1953年12月	3-12	自由党の社会科観	和歌森	白石
1954年1月	4-1	巻頭言・無	無	白石
1954年2月	4-2	巻頭言・無	無	白石
1954年3月	4-3	教職員の政治活動制限と社会科	和歌森	白石
1954年4月	4-4	巻頭言・無	無	編集後記・無
1954年5月	4-5	巻頭言・無	無	編集後記・無
1954年6月	4-6	巻頭言・無	無	編集後記・無
1954年7月	4-7	巻頭言・無	無	編集後記・無
1954年8・9月	4-8	巻頭言・無	無	編集後記・無
1954年10月	4-9	休刊の言葉	和歌森	編集後記・無

### 3. 社会科歴史への期待と危機感

『社会科歴史』全37号のうち、和歌森太郎が、編集後記不掲載の1951年12月と1952年5月を除き、創刊号から1953年7月号まで巻頭言、編集後記ともに執筆し、1953年8月号から1954年3月までは巻頭言のみを、その後同年10月号（最終号）巻頭に「休刊

の言葉」を執筆している。少なくとも1953年7月号まで『社会科歴史』は和歌森太郎<sup>11</sup>の実質的な編集責任によるものといえよう。

「創刊のことば」（1951年4月[1-1]）で和歌森は、「新制中学校の社会科歴史は、開設以来、コース・オブ・スタディはない、教科書はなしで、ほとんど空白に等しい状態におかれてきた」と述べている。

『中学校・高等学校学習指導要領社会科編Ⅰ（中等社会科とその指導法）（試案）』は1951年12月5日、社会科としての歴史学習の詳しい解説が記載された『中学校・高等学校学習指導要領社会科編Ⅲ（a）日本史（b）世界史（試案）』は1952年3月20日の公表である。両者は1947年版学習指導要領（試案）では示されなかった国史（日本史）の学習指導要領を、戦後初めて指し示した公的文書、社会科としての歴史学習の公的なガイドブックなのであった。だが『日本の成長』が発行された1951年1月には、いまだ1951年度版改訂学習指導要領も、それどころか改訂の中間発表（「中学校および高等学校、社会科日本史の指導計画について」1951年3月27日）さえ出ていなかった。このこともあって、『日本の成長 学習指導書』には、「はしがき」（1951年3月）に「中学校用の日本史検定教科書としては、本書以外に検定済のものがなく、『くにのあゆみ』は、検定教科書実現までのつなぎとしての、全く暫定的意味をもったものにすぎないから、少なくとも1951年度においては、日本史の学習が本教科書を中心にしてすすめられるわけである」と記されているのである。

『社会科歴史』もまた、和歌森にとっては、『日本の成長』とともに「社会科としての歴史」の理論と実際を指し示す役割を担うものとされた。さきの「創刊のことば」は、そのような強い自覚の現れとみてよいだろう。

1951年4月号（創刊号）と5月号の座談会「社会科歴史の指導計画」（和歌森、渡部是、谷口五男、飯塚彰、佐藤照雄、浜野浩一）、6月号と7月号の座談会「コース・オブ・スタディの中間発表について」（和歌森太郎、小西四郎、渡部是、大野連太郎、班目文雄、中山正二）は、和歌森が司会を担当し、学習指導要領の趣旨、社会科としての歴史学習の意義を伝える内容となっており、学習指導要領で日本史の責任者である小西四郎が、「『日本の成長』『学習指導書』というものもできましたが、それらは大体文部省の考えているコース、オブ、スタディとそう大して大きな開きはないと思います」（1951年6月号[1-3]）と述べ、和歌森の発言をオーソライズしている。

しかし1年半の後、1952年になると、状況は大きく変わってくる。巻頭言「歴史科独立論の背景」（1952年10月号[2-10]）において和歌森は、「社会科解体論、ないし否定論、それに関連して歴史科独立論が、総選挙を機会として一層あらわになって来た感がある。これが一党一派の主張でなく、保守的右翼、急進的左翼によって、唱えられていることは、特に警戒を要する」と述べるのである。さらにその1年後、1953年9月号[3-9]の巻頭言「社会科歴史の再出発」では、「社会科解体への攻勢は、にわかには活

---

<sup>11</sup> 和歌森太郎は、1919年千葉県に生まれ、1941年に東京高等師範学校講師、1942年から文部省・国民精神文化研究所所員、東京文理科大学講師。戦後は東京高師および東京文理科大学、東京教育大学教授となる。

発化して来た。すでに外堀は埋められた(中略)せつかく教育課程審議会には、その方面で第一級の良識を集めていたのに、それも意識的な、また無意識的な政治的圧力に抵抗しきれなかったかと、惜しまれてならない」と、強い危機感を表明している。前者(「歴史科独立論の背景」)の発言は占領期の終了を見据えた新教科社会科、社会科歴史の見直しを求めた岡野清豪文部大臣による教育課程審議会に対する諮問(「社会科の改善、特に道德教育、地理・歴史教育について」1952年12月19日)の直前にあたる。

また、社会科批判は行政に限られたものではなかった。勝田・梅根論争は、勝田守一と梅根悟が、社会科をめぐる展開した論争であるが、発端となった勝田守一の提案「社会科の再検討—社会科をどうするか—」(『教育』1952年1月号)は、中学校では、1年および2年の単元を歴史と地理を主とすべきであり、高校では「一般社会科は廃止したい」と、歴史学習と社会科の切り離しを主張するものであった。

『社会科歴史』は、1952年2月と3月号で、すかさずこの問題に対する特集を組み、2月号では谷口五男、班目文雄が社会科歴史を守る立場から、3月号には高橋碩一による、社会科としての歴史教育を認めない主張が掲載されている(高橋碩一「嵐に立つ歴史教育」)。とりわけ高橋の「たとえば社会科で歴史教材は取り扱われているではないか、とか、一步進んでも、歴史を多少まとめてやるような適当な単元をつくれればよいではないか」というような意見があるが、「われわれがいま真剣にこの問題と取り組んでいるというのは、内容のとぼしいひき出しを、あれこれ操作して、このガラクタはこのひきだしに詰めれば入るではないか、という安易なことではないのである」との発言は、きわめて厳しい社会科歴史批判となっている。

1952年10月号[2-10]の巻頭言「歴史科独立論の背景」では、和歌森による「社会科解体論、ないし否定論、それに関連して歴史科独立論が、総選挙を機会として一層あらわになって来た感がある。これが一党一派の主張でなく、保守的右翼、急進的左翼によって、唱えられていることは、特に警戒を要する」との言葉、また、その1年後になると、1953年10月号[3-10]座談会「教育問題の焦点 社会科改造の問題を語る」(海後宗臣、和歌森太郎、馬場四郎、金沢嘉市)において、「僕は、あれ(歴史教育独立の方向性を出した教課審答申を指す/梅野)を見まして、結局、事実上、社会科というのは看板だけのことであって、内容は、財界の人や、政党の連中が希望したような地理、歴史、修身の独立的な教科課程になるのではないだろうか」との発言は、いずれも、『日本の成長』や『社会科歴史』が推進してきた、社会科としての歴史学習という、戦後の新たな歴史教育の在り方が、はやくも転換とを強いられる自体の到来に、強い危機感を示すものとなっている<sup>12</sup>。

---

<sup>12</sup> 1954年1月号[4-1]「これからの歴史教育」における「歴史学者が歴史教育について、積極的な感心を示さなかったこれまでの事情は、俄に彼らを動員してその意見を求めても、必ずしもピントのあった発言を集めにくくさせ」「学問研究の上には正しい進んだ水準にたちながら、こと歴史教育上の論議になると、かなり主知主義にかたむいて、こういうことを教えろこれも必要であると言うような論議を」しているとの指摘は、社会科歴史に対する否定的な動きが政治的保守回帰によるばかりでなく歴史研究者の無理解によるものであることへの、和歌森のいらだちがうかがえる。

#### 4. 白川豪雨水害と社会科歴史

『社会科歴史』1953年10月[3-10]の巻頭言は「水害問題は歴史か地理か」である。少し長くなるが抜粋する。

「はげしい水害がなぜ起こったか、どうしたら水害を起こさぬようにすることができるか、という問いには、歴史だけでも答えることはできない。地理だけでも答えられないことは、このたびの水害は多分に人災というべき性質をもつ、政治の貧困のしからしめたものだ、という意見が強力に出ていることでもわかるように、よくわかっているはずである。(中略/梅野)水害は一例である。他にもこういった歴史地理の分立では解決できぬ、切実な問題はいろいろあるはずである。それを放棄しても、なお社会科の精神を守る、などといいはるのであるか」「今の社会科でも、子供たちは問題ごとに随所に歴史を学んで、世の中は幾段かに変わって来た、従ってこれからも変えていくことができるのだと思うようになっている。こういう力を持つ子供たちに対して、お前は歴史を知らぬなどときめつけるのは乱暴である。」

西日本各地が記録的豪雨に見舞われたのは、この年、1953年6月下旬のことである。熊本県は死者170人、行方不明341人を出す被害となり、今日も6.26白川水害として毎年慰霊の集いが持たれている。授業実践「水害と市政」は、このとき、熊本大学教育学部付属中学校の社会科教諭の吉田定俊によって取り組まれ、生徒の調査活動をベースに水害を、地理的、歴史的学习を通しての政治的課題を考察する優れた実践であった。

「水害と市政」を掲載した『カリキュラム』（吉田定俊「水害と市政」の掲載は『カリキュラム』1953年12月号）は、1948年に結成されたコア・カリキュラム連盟の機関誌として1949年1月より発行され、1953年6月には組織名を日本生活教育連盟と改称していた。コア連は「民間文部省」とさえ呼ばれて1950年3月には和光学園を実験学校とするまでになっていたが、1950年5月の文部省講習会で、CIEのオズボーンによる「コア連は行き過ぎだ」「コア・カリキュラムはアメリカでも進歩的な一部の学校でやっているだけで、日本ではむりだ。まず教科別の生活教育を十分にやり、それからコア・カリキュラムに発展していくべきだ」との発言が全国の教育委員会に送付され、実質的に在野の民間教育団体として再出発を迫られていた<sup>13</sup>。

また、水害の被害状況が報道された6月29日朝刊は、おりしも「地・歴教育の徹底へ」「『大達文政』の基本方針」との記事が一面で報じられていた。文相は25日の衆議院文教委員会で教育内容の刷新改善を取り上げ、「とくに小、中学校などの義務教育における地理・歴史教育については系統的知識に欠けることのないようこれを改善して、その徹底をはかる」とした。

先の和歌森による巻頭言は、吉田実践掲載の前であったが、水害を例にあげての、戦後教育政策の転換と、中学校社会科の総合性を否定する動きを批判する象徴的発言とな

<sup>13</sup> 梅野正信「水害と市政」『現代社会科教育実践講座 第5巻』研秀出版、1991年、pp.219-227。

っていたのである。

## 5. 神話教育への積極的言及

戦前及び敗戦後の旧態依然たる神話教育観を払拭したのは、『中学校高等学校学習指導要領社会科編Ⅱ 一般社会科（中学校1年～高等学校1年、中学校日本史を含む）（試案）』（1952年10月20日）であった。中学校日本史では、「神話や伝説を正しく批判する態度」が設定され、「古事記や日本書紀はどんなことを書いてあるのかを書物で調べ、それはどのような目的でつくられたかを皆で話し合おう」、「神話や伝説だけが原始社会を知る材料だったとしたら、どんなことになるか話し合わせ、考古学や民族学、その他の諸科学の総合が原始社会の理解を導くのに役立つことを生徒が理解できたかどうかを評価する。また神話や伝説を批判的に取り扱う態度ができたかどうかを判定する」との指導指針も示されていた。

『日本の成長』は、批判的視点を更に踏み込んで、記・紀・風土記の内容を学習内容として深める叙述となっていた。たとえば、「八世紀のはじめにできた『古事記』や『日本書紀』は、（中略）国家の成り立ちについては、その支配者本位に選んだ伝説を述べている」「天皇や、その子弟が、みずから兵を率いて、南のはてのくまそとか、東のすみのえぞとかを、攻め従えていったという物語などは、ある程度事実にもとづいた話であろう」などである<sup>14</sup>。また、『日本の成長 指導書』では、「日本神話の中の海幸山幸の物語を読んで、どうしてこんな物語ができたかについて話し合う」「皇室の歴史・系図を調べる」「象徴としての天皇の意味について話し合う」「神武天皇東征の物語を調べて話し合い、批判する」「日本武尊の物語を調べる」「天皇にはなぜ姓がないのかを考える」などの提言<sup>15</sup>、さらには天皇と姓、象徴の意味など、現代的問題にまで考えを及ぼすなど、記・紀・風土記を史料として活用・批判する作業が豊富に叙述されている。

『社会科歴史』1951年4月号（創刊号 [1-1]）に掲載された長野正「歴史教材としての神話」は、神話をそのまま使うことには警告を要するとしながらも、日本神話から「古代人の生活の諸様式を探り出す」ことができること、海幸・山幸の物語から「狩猟と漁撈を生業としていた石器時代人の生活」を学び、少彦名命の常世国の話など自然崇拜や呪術、原始宗教、ト占などに関して随所に活用可能な箇所があると指摘する。また、天孫降臨、三種神器、天照大神など「戦時中に『国体の尊厳』を謳うにかり出された神話」の中にも古い民衆の生活や文化が反映されており、「これがいかにして天皇制国家の支配体制を妥当ならしめる具と」となったかを明らかにすることで、古代貴族正当化の意図を解説することも可能なのだと指摘している。この号の編集後記には、「神話の問題は、今のところ、破壊され放しで、全くどうしようもないもののように受けとられている向きがあるが、長野正の論によって、これも使いようで歴史学習に生かせる道が

<sup>14</sup> 『和歌森太郎著作集13』弘文堂、1982年、p. 415。

<sup>15</sup> 『日本の成長 指導書』実業之日本社、1951年、p. 81。



示唆されたであろう」と記されている。この記述もまた、和歌森の神話教育に対する姿勢を反映した物と思われる。

『社会科歴史』には、ほかにも、村上正名「社会科日本史における地方史教材の取扱いについて」（1953年1月号 [3-1]）で、「日本の神話と農業の関係を科学的に解明する」「備後にのこる神話と弥生式文化期遺跡」「神武天皇の東征、日本武尊の話を批判する」など中学校2年生を対象とした授業実践が紹介されている。また、尾鍋輝彦との対談「歴史教育の勘どころ」（1954年6月号 [4-6]）では、和歌森による「決して神話、伝説を削ってはいけない。一応与えて、それをだんだん材料、手段にして、科学的な歴史の学習の仕方について、筋道を与えるという、歴史の指導が確立して行かなければいけない」との発言が示されている。

以上、科学的か非科学的か、民主的か反動かという二分法で論じられることの少ない神話教育であるが、『社会科歴史』誌上でなされた神話教育に関する論考や指摘は、占領期のただ中であって神話と正面から向きあう批判的歴史学習の実際を指し示した歴史的事実を示すものとなっている。

## 6. 批判する教科としての社会科歴史

政治的中立に関する教育二法案（1954年6月3日公布）は、占領終結後の一連の保守回帰を象徴するものの一つといえよう。和歌森は、このような政治的動向に対し、巻頭言「教職員の政治活動制限と社会科」（1954年3月号 [4-3]）で「教職員の政治活動制限の立法化がすすめられている。（中略）仮に政府の意図通り、これが実現すると、最も辛い目にあうのは社会科の教師、歴史教育者であろう」「教育の中立とは、あらゆる政見、政策に対して批判的であることよりほかにはないはずである」「社会科はどこまでも政治批判力の教育で無ければならぬ。政治活動制限とは、社会科廃滅にひとしいものである」と述べるなど、批判的姿勢をとっていた。

和歌森の発言は、かの戦争への直截的な反省をふまえたものであった。下記の1951年10月号 [1-7] 編集後記は、これを良く示している。

「戦争は罪悪だ、どんな名目がそこにうたわれようと、それは悪だ。にもかかわらず、たった六年しか経たぬのに、また戦争におうずる用意をしておかねばならぬ、などという意見が指導的になろうとしている。ここまでゆるすと、もう戦争肯定論とすれすれになる。こうした世論をつくろうとする指導者たちは、あの莫大、また深刻な犠牲に対してどのようにつぐなおうというのであろうか」

和歌森は社会科としての歴史学習に期待し、『日本の成長』と『社会科歴史』に多くの学習論を展開した。そこには、今日から見て批判の余地がなくはない。しかしながら、託された様々な学習論、歴史観の基底にある、無謀な戦争と悲惨な犠牲という直接的体験をくぐりぬけた批判的歴史意識の存在を、忘れてはならないだろう。

## 『社会科歴史』 総目次

### 凡例

- ・記事名、著者名（所属等）、掲載頁の順で記載した。
- ・頭文字等での著者名表記や肩書の略記は原文のままである。ただし、第3巻第7号（1953年7月）の「『社会科歴史』の業績を回顧する 歴史教育界の先頭にあつて」（26～30頁）及び第4巻第9号（1954年10月）の「通巻目次」（45～48頁）で頭文字や肩書等が補われている場合は（ ）で補っている。
- ・頁番号の記載のない部分は、適宜に補う形で掲載頁を記載した。
- ・グラフ・図版及び広告は省略した。
- ・旧字体の漢字は新字体に改めた。明確な誤植は修正した。

### 第1巻第1号 1951年4月

創刊のことば 和歌森太郎・1

歴史と現代との関連について 和歌森太郎・2～5

展開試案 展開案「歴史とは、何を勉強するものだろうか」 塩田元久（東京都中野区立第六中学校）・6～9

展開試案 展開案「ヨーロッパ世界との交渉が始まり、封建社会の統一もすすんだ」 藤原正教（大分大学附属中学校）・9～13

歴史教材としての神話 長野正（東京文理科大学国史学研究室）・14～15

信長と秀吉 水江漣子（東京文理科大学国史学研究室）・16～17

座談会 「社会科歴史の指導計画」・18～24

和歌森太郎（司会）（東京文理科大学）／渡部是（文部省）

谷口五男（東京教育大学附属中学校）／飯塚彰（東京都墨田区立本所中学校）

佐藤照雄（東京都千代田区立一橋中学校）

浜野浩一（東京都学芸大学附属中学校）

学習用資料 封建社会の統一 編集部・25～27

教科書「日本の成長」を使用して

重歳政雄（岡山県英田郡福本中学校）・28～29

著者より・29

「日本の成長」読後感・30～31

小谷野喬（東京教育大学附属中学校二年）、塚田治郎（東京教育大学附属中学校二年）

著者より・31

テスト例題 「ヨーロッパ世界との交渉によって封建社会はどのように変わったか」 関係例題・32

編集後記 和歌森太郎・33

### 第1巻第2号 1951年5月

巻頭言 歴史教育の効果 和歌森太郎・1

歴史教育への一つの要望 大浦猛（東京高等師範学校助教授）・2～6

江戸の歴史 水江漣子（東京文理科大学国史学研究室）・7～9

「原始社会」の指導法 貝森格正（青森県津軽郡筒井中学校校長）・・10～13  
テスト例題「私たちの先祖は、どのようにくらしていたらだろうか・・13  
民俗の原始性 亀山慶一（民俗学研究所員）・・14～17  
「江戸幕府の成立とその政治」の指導法 都丸十九一（群馬県勢多郡横野中学校）・・  
18～21  
歴史教室のあり方 班目文雄（東京都指導主事）・・22～25  
受贈図書紹介・・25  
座談会 「社会科歴史の指導計画」について・・26～32  
和歌森太郎（司会）（東京文理科大学）／渡部是（文部省）  
谷口五男（東京教育大学附属中学校）／飯塚彰（東京都墨田区立本所中学校）  
佐藤照雄（東京都千代田区立一橋中学校）  
浜野浩一（東京都学芸大学附属中学校）  
編集後記 和歌森太郎・・33

### 第1巻第3号 1951年6月

巻頭言 歴史と体験 和歌森太郎・・1  
社会科歴史における平和教育の問題  
浜野浩一（東京都学芸大学世田谷分校附属中学校講師）・・2～5  
古代国家成立の諸問題 長野正（東京文理科大学国史学研究室）・・6～9  
座談会 コース・オヴ・スタディの中間発表について(1)・・10～17  
和歌森太郎（司会）（東京文理科大学）／小西四郎（東京大学史料編纂所員）  
渡部是（文部事務官）／大野連太郎（文部事務官）  
班目文雄（東京都指導主事）／中山正二（東京都品川区立大崎中学校）  
奈良や京都の都 和歌森太郎・・18～19  
後期封建社会の崩壊について 甲元武士（桐朋学園講師）・・20～23  
岐阜県教育委員会指導課編「社会科日本史指導の手引」によせて 和歌森太郎・・24～  
25  
テスト例題「国家は、どのようにしてつくられたであろうか」「封建社会に、人民は  
どのように統制されたらろうか」関係例題・・26～27  
平出遺跡の調査により何がわかったか 大場磐雄（国学院大学教授）・・28～32  
編集後記 和歌森太郎・・33

### 第1巻第4号 1951年7月

巻頭言 歴史観の問題 和歌森太郎・・1  
萬葉集と古代国家 次田真幸（お茶の水女子大学助教授）・・2～3  
幕末の都市と農村 横山十四男（横浜市立港高等学校教諭）・・6～9  
親分・子分 和歌森太郎（東京教育大学教授）・・10～15  
東京都中学校社会科日本史教育課程について 中山正二（東京都大崎中学校教諭）・・  
16～19  
学界動静 20～21  
座談会 コース・オヴ・スタディの中間発表について(2)・・22～25  
和歌森太郎（司会）（東京文理科大学）／小西四郎（東京大学史料編纂所員）  
渡部是（文部事務官）／大野連太郎（文部事務官）  
班目文雄（東京都指導主事）／中山正二（東京都品川区立大崎中学校教諭）  
編集後記 和歌森太郎・・33

## 第1巻第5号 1951年8月

- 巻頭言 現実からの脱却 和歌森太郎・1  
近世庶民史料の扱い方 渡辺一郎（東京文理科大学助手）・2～9  
学校における歴史教育の連関—中学校と高等学校の場合— 菅野二郎（東京都立文京高校教員）・10～13  
市のしらべかた 北見俊夫（東京文理科大学国史学研究室／民俗学研究所）・14～17  
江戸市民の消費財の供給路 I・W生（渡辺一郎）（東京文理科大学助手）・18～19  
近代社会の性格 和歌森太郎（東京教育大学教授）・20～23  
生徒から日本史の先生へ 東京学芸大学世田谷分校（二年西田明弘、二年牧野泰子、三年箱根裕泰）・24～25  
大塩平八郎 水江漣子（東京文理科大学国史学研究室）・26～29  
統一的史観の缺如—最近の日本史概説書を読み— 桜井徳太郎（東京文理科大学助手）・30～31  
金石文の紀年銘 I・T生・32  
編集後記 和歌森太郎・33

## 第1巻第6号 1951年9月

- 巻頭言 いわゆる歴史常識について 和歌森太郎・1  
日本史指導法私見 中野良道（東京都保谷中学校教諭）・2～7  
受贈図書紹介・7  
藤原時代における貴族の生活と地方社会 桜井徳太郎（東京高師助教授）・8～12  
藩閥の実態 福地重孝（東京文理科大学特別研究生）・13～17  
高等学校生における社会科歴史の興味調査 高田隆二（福島高等学校教員）・18～19  
生徒の意識 山崎恵弘（米子市立第三中学校教諭）・20～21  
錯覚 山根大二（島根県三刀屋中学校教諭）・22～23  
歴史教育におけるグラフ利用の問題 渡辺一郎（東京文理科大学助手）・24～26  
條里制遺構の分布 小堀巖（東洋文化研究所所員）・27～32  
編集後記 和歌森太郎・33

## 第1巻第7号 1951年10月

- 巻頭言 指導者待望？ 和歌森太郎・1  
資料解説 武士の社会 和歌森太郎（東京教育大学教授）・2～6  
中学校における歴史教育とは 西山民雄（沼津市第四中学校）・7  
歴史の話題 近世の名君 甲元生（桐朋学園講師）・8～9  
歴史の話題 蘭学事始 甲元生（桐朋学園講師）・9  
日本史学習と郷土研究 渡辺守順（滋賀県八日市町聖徳中学校）・10～11  
資料 明治維新と文明開化 編集部・12～17  
受贈図書紹介・17  
生徒から日本史の先生へ 東京学芸大附属中生徒（二年佐々木康人、三年中野利雄三年伊藤守）・18～19  
テスト例題 「古代文化はどのようにととのえられその文化はどのように発達したか」  
「近代社会はどのようにして形成され、どのような文化を発達させたか」関係例題・  
20～21  
交驛室・22  
生徒の歴史的経験調査 藤沢佐一（群馬県高崎市立東中学校）・23  
座談会 歴史的人物の扱い方(1)・24～32

和歌森太郎（司会）（東京文理科大学）／岡田章雄（東大史料編纂所）  
谷口五男（東京教育大学附属中学）／菅野二郎（東京・文京高校）  
福地重孝（千葉・国府台高校）／甲元武士（東京・桐朋学園）  
編集後記 和歌森太郎・32

### 第1巻第8号 1951年11月

巻頭言 社会科のゆくえ 和歌森太郎・1  
社会科歴史と民俗学 亀山慶一（民俗学研究所員）・2～7  
受贈図書紹介・7  
民権運動と福島事件 高橋哲夫（福島県会津女子高等学校教諭）・8～12  
国語教科書における歴史教材 浜野浩一（東京学芸大学附属中）・13～17  
座談会 歴史的人物の扱い方(2)・18～25  
和歌森太郎（司会）（東京文理科大学）／岡田章雄（東大史料編纂所）  
谷口五男（東京教育大学附属中学）／菅野二郎（東京・文京高校）  
福地重孝（千葉・国府台高校）／甲元武士（東京・桐朋学園）  
歴史の話題 徴兵令について 和歌森太郎（東京教育大学教授）・26  
世界経済恐慌と日本 船木迪哉（実業之日本編集部員）・27～31  
交驩室・32  
編集後記 和歌森太郎・32

### 第1巻第9号 1951年12月

巻頭言 愛国の歴史教育 和歌森太郎・1  
パリの歴史教育セミナーの断想 小沢栄一（東京学芸大学教授）・2～7  
養蚕業の発達と日常生活 竹田旦（東京文理科大学助手）・8～13  
読者のたより・13  
社会科教育における道徳教育 藤原正教（大分大学附属中学校）・14～18  
歴史の話題 奥州藤原氏 桜井徳太郎（東京高師助教授）・19  
歳市の調査法 渡辺一郎・20～21、23  
教員室より 国史教育私観 西村進（三島市立第三中学校）・22～23  
日本史教育についての希望 東京学芸大学世田谷附属中父兄(谷一郎 東京大学工学部教授、堀武芳 日本勧業銀行理事、山本熊一 元バンコック駐在特命全権大使) ・24～25  
教師からの返答 浜野浩一・25～26  
寄贈図書紹介 高橋碩一著日本の科学者(中学生歴史文庫日本史6) 和歌森太郎（東京教育大学教授）・26  
テスト例題 「日本の封建制度は、どのようにして成立しただろうか」・27  
日本古代文化の解明(上) 八幡一郎（文部技官・国立博物館考古課長）・28～32  
編集後記 和歌森太郎・32

### 第2巻第1号 1952年1月

巻頭言 日本人として 和歌森太郎・1  
太平洋戦争をどう教えるか 中屋健一（東京大学助教授）・2～6  
天皇問答 浜野浩一（東京学芸大学附属中学校）・7～11  
歴史教育の実情と反省 《興味希望調査より見た歴史教育の反省》 本田南城（愛媛県南宇和郡城辺中学校）・12～16  
歴史の話題 三八度線と帯方郡 長野正・17

事実と真実への理解—映画「風雪二十年」から— 水江漣子（東京文理科大学国史学研究室）・・・18～19  
生徒の研究 安祥城について天野暢保（愛知県碧海郡安城北中学校3年）・・・20～21  
士一揆と百姓一揆 渡辺一郎（教育大学国史研究室）・・・22～26  
日本古代文化の解明(下) —十月二十日国立博物館大講堂における講演  
八幡一郎（文部技官・国立博物館考古課長）・・・27～32  
編集後記 和歌森太郎・・・32

## 第2巻第2号 1952年2月

巻頭言 歴史教育の技術と教材 和歌森太郎・・・1  
特集 社会科歴史独立の是非  
歴史の功罪 勝田守一（東京大学教授）・・・2～5  
中間案を呈出する 尾鍋輝彦（お茶の水大学教授）・・・6～10  
現行制度により近く 班目文雄（東京都指導主事）・・・10～13  
国家独立に際し根本的再検討を望む 千々和実（東京学芸大学世田谷分校）・・・14～16  
歴史科独立論の断面 谷口五男（東京教育大学附属中学校）・・・16～19  
漫画から見た大正・昭和の世相 土岐直彦（読売新聞社、社史編纂室）・・・20～24  
歴史の話題 明治天皇の行幸 福地重孝・・・25  
日本文化と「模倣」について 芳賀幸四郎（東京文理科大学助教授）・・・26～30  
テスト例題 VIII. 「太平洋戦争はどのようにして起こったか」・・・31  
特集記事について 特集「社会科歴史独立論の是非について」 和歌森太郎（東京教育大学教授）・・・32  
編集後記 和歌森太郎・・・32

## 第2巻第3号 1952年3月

巻頭言 歴史は経験の累積 和歌森太郎・・・1  
嵐に立つ歴史教育 高橋碩一・・・2～10  
テスト例題 「VI日本の封建制度はどのようにして成立しただろうか」関係例題・・・11  
室町・戦国期の史料 編集部・・・12～15  
嗜好・意匠＝歴史 富岡敏・・・16～17  
教員室より 歴史雑見 中井寿孝（兵庫県美方郡浜坂町浜坂中学校）・・・18～19  
中学日本史の授業形態 高野源治（石川県鹿島郡鳥屋町鳥屋中学校）・・・20～21  
都市研究の窓より 水江漣子（東京文理科大学国史学研究室）・・・22～26  
後北条氏の楽市政策 渡辺一郎（教育大学国史研究室）・・・27～32  
編集後記 和歌森太郎（東京教育大学教授）・・・32

## 第2巻第4号 1952年4月

巻頭言 いわゆる歴史の批判について 和歌森太郎・・・1  
漢委奴国王印について 後藤守一（明治大学教授）・・・2～8  
歴史と道德教育 籠谷浅市（兵庫県加古川市立中部中学校）・・・9  
私の歴史教室  
中学校社会科歴史教育の反省と実践 村上正名（広島大学教育学部附属中学校）・・・10～16  
中学一年の日本史学習 徳山正人・川井綾子（お茶の水女子大学附属中学校）・・・17～21

若き歴史教師への手紙（1）太平洋戦争をめぐって M生（水江漣子）（東京文理科  
大学国史学研究室）・・22～23  
テスト例題 1. 私たちの先祖は、どのようにくらしていたらうか・・23  
単元学習と歴史の系統的学習 石川県鹿島郡歴史教育研究会／高野源治（石川県鹿島  
郡鳥屋中学校）・・24～28  
歴史の話題 三つの吾妻橋 渚朋子・・29  
井戸の変遷 菱田忠義（木更津第一高校教諭）・・30～32  
編集後記 和歌森太郎・・32

## 第2巻第5号 1952年5月

巻頭言 社会的責任感の培養 和歌森太郎・・1  
イギリスの国王について 中村英勝（お茶の水女子大学教授）・・2～7  
歴史科独立論をめぐって  
歴史学習の方法 都築亨（名古屋大学附属中学校）・・8～10  
歴史の話題 安政条約と安保条約 福地重孝・・11  
私の日本史指導記録中学三年一郷土史をとり入れて一 中村義太郎（静岡県浜名郡新  
居町立新居中学校）・・12～13  
「日本の発展」地方別索引・・14  
テスト例題 II 国家は、どのようにしてつくられたのであろうか・・15  
「古代国家の形成」とその指導法 長野正（東京文理科大学国史学研究室）・・16～21  
生徒の発達と学習指導一中学生の歴史意識の発達と特性について 小倉信治（富山大  
学附属中学校）・・22～32

## 第2巻第6号 1952年6月

巻頭言 憲法と歴史 和歌森太郎・・1  
都市としての平城京一その市民の構成と生活一 木代修一（東京教育大学文学部教授）  
・・2～9  
生徒の感想 日本史を学んで 小沢浪華（名古屋大学附属中学校）・・9  
『負うた子』の教えるもの 高橋哲夫（福島県会津女子高等学校）・・10～14  
若き歴史教師への手紙（2）大和古寺をめぐって M生（水江漣子）（東京文理科大  
学国史学研究室）・・15  
近世史の学習指導展開案 布施川市川（群馬県甘楽郡小野小学校）・・16～19  
古墳 今城甚造（教育大学助手）・・20～21  
徳川町人の生活と意識 中田易直（文部省史料館員）・・22～26  
テスト例題 III 古代国家はどのようにととのえられ、その文化はどのように発達したか  
・・27  
歴史教育とスライド 川畑辰二（目黒区立第四中学校）・・28～32  
編集後記 和歌森太郎・・32

## 第2巻第7号 1952年7月

巻頭言 独立の歴史教育 和歌森太郎・・1  
特集 歴史教育の再検討  
歴史教育の目標と方向 馬場四郎（東京都文理科大学助教授）・・2～10  
社会科と歴史 和歌森太郎（東京教育大学教授）・・10～15  
高校からみた中学社会科歴史 久保田勉（東京都立目黒高等学校）・・16～20  
テスト例題 III 古代国家はどのようにととのえられ、その文化はどのように発達したか

IV封建社会に、国民はどのように統制されたらうか・・21  
漁村児童生徒の歴史的意識 大竹栄（静岡県沼津市立第二小学校教諭）・・22～25  
日本史学習に於ける時間配当の問題―中学校の場合―佐々木孝（秋田県歴史教育協議会秋田市立久保田小学校）・・26～27  
日本史教育上の盲点 大護八郎（埼玉県川越高等学校入間川分校）・・28～29  
教員室より 中学日本史授業形態一考―史料を中心とした― 山根大二（島根県飯石郡三刀屋中学校）・・30～31  
語感 山崎恵弘（米子市立第三中学校）・・32～33  
歴史の話題 旅日記の明暗 水江漣子（東京文理科大学国史学研究室）・・34  
大学の自由 芳賀登・・35  
富豪の文化保存 科野共雄（長野県下高井郡平穏村）・・36～37  
ひとつの近代的人間像―新井白石に関するノート― 玉田保寿（歴史学研究会会員）・・38～39  
高校進学学力検査の分析 渡辺一郎（教育大学国史研究室）・・40～47  
編集後記 和歌森太郎・・48

## 第2巻第8号 1952年8月

巻頭言 地方史研究の態度 和歌森太郎・・1  
特集 地方史のしらべ方  
原始遺蹟の考古学的調査 木代修一（東京教育大学文学部教授）・・2～8  
歴史の話題 皇室と伊勢神宮 長野正・・9  
地方史研究のための農村社会調査法 森岡清美（東京教育大学講師）・・10～14  
地方文化史の研究 大藤時彦（民俗学研究所員）・・15～19  
歴史地理学と地方史研究 千葉徳爾（東京教育大学）・・20～24  
テスト例題 IV日本の封建制度は、どのようにして成立したのだろうか―封建社会の1―・・25  
若き歴史教師への手紙（3）「箱根風雲縁」をめぐって M生（水江漣子）（東京文理科大学国史学研究室）・・26  
社会科と歴史（二） 和歌森太郎（東京教育大学教授）・・27～32  
編集後記 和歌森太郎・・32

## 第2巻第9号 1952年9月

巻頭言 革新と反動 和歌森太郎・・1  
世界各国の歴史カリキュラム 穂積重行（東京教育大学講師）・・2～8  
近世庶民史料の整理と分類 渡辺一郎（教育大学国史研究室）・・9～15  
松坂大年寄の交人圏―三井高蔭について― 水江漣子（東京文理科大学国史学研究室）・・16～25  
歴史の話題 歴史研究の自由について 福地重孝・・26  
テスト例題 VII近代社会はどのようにして形成され、どのような文化を発達させたか・・27  
社会科と歴史（三） 和歌森太郎（東京教育大学教授）・・28～32  
編集後記 和歌森太郎・・32

## 第2巻第10号 1952年10月

巻頭言 歴史科独立論の背景 和歌森太郎・・1  
座談会 「独立日本」と歴史教育 [1]・・2～10



和歌森太郎(司会)(東京文理科大学)／青木治平(渋谷区立外苑中学校)  
森杉多(東京都立白鷗高校)／飯塚彰(墨田区立本所中学校)  
中村博(台東区立蔵前中学校)／川畑辰二(目黒区立第四中学校)  
福田勲(荒川区立第五中学校)／清水常吉(大田区立大森第一中学校)  
山本政勝(川崎市立玉川中学校)／渡辺一郎(教育大学国史研究室)

教材 平氏と文化 和歌森太郎(東京教育大学教授)・10

歴史の話題 蓮如紀 桜井徳太郎・11

児童生徒の歴史的関心 大竹栄(静岡県沼津市立第一小学校教諭)・12～16

郷土の産業と人—上総海苔のはじまり— 高橋在久(千葉県庁社会教育課)・17～18

名田について 阿部猛(東京文理大國史研究室)・19～23

維新史料 科野共雄(長野県下高井郡平穏村)・24～25

史論ダイジェスト M生(水江漣子)(東京文理科大学国史学研究室)・26～27

社会科と歴史(四) 和歌森太郎(東京教育大学教授)・28～32

編集後記 和歌森太郎・32

## 第2巻第11号 1952年11月

巻頭言 見てきたように 和歌森太郎・1

日本史に於ける現代史の教育 家永三郎(文学博士／東京教育大学教授)・2～7

テスト例題 VII近代社会関係・7

視覚教材を中心とする歴史学習 藤原正教(大分大学附属中学校)・8～17

社会科歴史管見 村上直(東京都目黒区三中教諭)・18～19

座談会 「独立日本」と歴史教育 [2]」・20～27

和歌森太郎(司会)(東京文理科大学)／青木治平(渋谷区立外苑中学校)

森杉多(東京都立白鷗高校)／飯塚彰(墨田区立本所中学校)

中村博(台東区立蔵前中学校)／川畑辰二(目黒区立第四中学校)

福田勲(荒川区立第五中学校)／清水常吉(大田区立大森第一中学校)

山本政勝(川崎市立玉川中学校)／渡辺一郎(教育大学国史研究室)

社会科と歴史(五) 和歌森太郎・28～32

編集後記 和歌森太郎・32

## 第2巻第12号 1952年12月

巻頭言 反米思想の逆効果 和歌森太郎・1

戦国武将と文化 田中久夫・2～6

江戸の庶民生活 水江漣子(東京文理科大学国史学研究室)・7～10

鎌倉時代の指導法 青木治平(渋谷区立外苑中学校)・11～16

文明開化の指導(濱松市東部中にて) 和歌森太郎・17～23

近代史学習に於ける文学の問題 玉田保寿・24～25

図書紹介 社会科としての歴史教室・26

能登島の女性生活史—石川県鹿島郡東島村の調査ノートより— 杉尾嘉和子・大西茜子  
(金沢大学教育学部学生)・27～32

編集後記 和歌森太郎・32

## 第3巻第1号 1953年1月

巻頭言 社会科歴史の改訂について 和歌森太郎・1

日本史に於ける神社の取扱い 萩原龍夫(東京学芸大学助教授)・2～8

親が見る今の教育 寺尾威夫(大和銀行頭取)・9～11

寺尾氏の所論に答う戦前には戻りたくない 和歌森太郎・12～15  
地方史教育 社会科日本史における地方史教材の取扱いについて(上) 村上正名(広島大学教育学部附属福山中学校)・16～21  
中学校の社会科日本史 藤沢佐一(高崎市立第三中学校)・22  
史論ダイジェスト 肥後和男博士著 神武天皇 長野正・23～24  
宮座の座員数に就いて 井上頼壽・25  
抵抗の歴史教育—歴史教育問題懇談会を聴いて— 水江漣子(東京文理科大学国史学研究室)・26～28  
代官の家 渡辺一郎(東京鷗友学園講師)・29～32  
編集後記・33

### 第3巻第2号 1953年2月

巻頭言 “前向き”の歴史教育 和歌森太郎・1  
歴史研究前進のために 酒井忠雄(大阪学芸大学助教授)・2～6  
講義法を用いる歴史学習(上) 藤原正教(大分大学附属中学校)・7～12  
書評 小沢栄一著「国際理解と社会科における歴史教育」和歌森太郎・13  
地方史教育 社会科日本史における地方史教材の取扱いについて(下) 村上正名(広島大学教育学部附属福山中学校)・14～17  
天皇にたいする児童の認識について 居安正(神戸大)／安岡重明(大阪大)・18～25、12  
歴史教育の焦点 都築亨(名古屋大学教育学部附属中学校)・26～27  
歴史家は詩人でありたい—「続偽らぬ日本史」に寄せて—水江漣子(東京文理科大学国史学研究室)・28  
歴史の話題 勅語奉答文事件 福地重孝・29  
生徒の感想文集より 後期封建社会の学習を終って 中井壽孝・30～31  
テスト問題 太平洋戦争はどのようにして起こったか・32  
編集後記・33

### 第3巻第3号 1953年3月

巻頭言 もしも自分だったら 和歌森太郎・1  
学力検査は歴史教育に何をもたらしたか 班目文雄(東京都教育庁指導部主事)・2～6  
歴史の話題 稲作と日本民族の起原 竹田旦・7  
近世都市の発達と燃料源 千葉徳爾(東京教育大学)・8～12  
戦国時代の公家生活—言継卿記を通して— 大岩邦・13～16  
「原敬日記」を読む 福地重孝・17～21  
史論ダイジェスト 坂田吉雄著 戦国武士 水江漣子(東京文理科大学国史学研究室)・22～23  
講義法を用いる歴史学習(下) 藤原正教(大分大学附属中学校)・24～29  
地理教材の歴史教育的取扱いについて 高野源治(石川県鹿島郡歴史教育研究会)・30～32  
編集後記 和歌森太郎・33

### 第3巻第4号 1953年4月

巻頭言 おとながもてなかつたものを 和歌森太郎・1  
歴史学と歴史教育 小沢栄一(東京学芸大学教授)・2～7

社会科日本史の客観テスト『封建社会』の統一を例にー 浜野浩一・8～16  
寺院址の調査についてー平泉無量光院址の発掘ー 三宅敏之（文化財保護委員会文部  
技官）・17～21  
生徒の研究発表 前浜新田の開発について 長田三和子（愛知県碧南市立棚尾中学校三  
年）・22～25  
原始社会の学習について 中井壽孝（兵庫県浜坂中学校教諭）・26～30  
知る歴史から考える歴史へ 上寺久雄（広島大学教育学部附属東雲中学校）・31～32  
編集後記 和歌森太郎・33

### 第3巻第5号 1953年5月

巻頭言 歴史好きのタイプ 和歌森太郎・1  
対談 倒叙法について・2～11  
並河茂（東京都杉並区和田中学校教諭）／和歌森太郎（東京教育大学教授）  
現代史を貫くもの 都築亨（名古屋大学教育学部附属中学校）・12～15  
堺市教育委員会編「堺の歴史」を読んで 水江漣子（東京文理科大学国史学研究室）  
・16～17  
般若講 井上頼壽・18～20  
四年生の場合 今日の歴史教育ー授業を中心にー 杉森外喜雄（石川県鹿島郡滝尾小学  
校教諭）／岡山智範（石川県鹿島郡余喜小学校教諭）・21～27  
学習指導の技術 社会科日本史研究会記録 重歳政雄（岡山県英田郡福本中学校教諭）  
・28～32  
編集後記 和歌森太郎・33

### 第3巻第6号 1953年6月

巻頭言 修学旅行 和歌森太郎・1  
古代国家成立の問題点 井上光貞（東京大学助教授）・2～8  
歴史の話題 白石の史疑 中田易直・9  
中学校における日本史の学習指導について 横山秋一（岐阜市立加納中学校教諭）・  
10～18  
社会科歴史の選択に関する問題 青木治（長野県大町高等学校教諭）・18～22  
雪とゴム靴 富岡敏・23  
郷土史研究グループ実際の素描 中村一哉（岡山県福本中学校教諭）・24～25  
歴史教室めぐり・26～31  
歴史教育における平和と愛国の問題 村上直・32  
編集後記 和歌森太郎・33

### 第3巻第7号 1953年7月

巻頭言 歴史から現実の課題を 和歌森太郎・1  
中学校における世界史 谷口五男（東京教育大学附属中学校教諭）・2～7  
歴史教科書への夢 若林淳之（静岡大学教育学部）・7  
歴史研究レポート 美術史を歴史教育に如何に取り入れるか 村上榮子（東京教育大学  
日本史学科学生）・8～17  
夏休みの有効利用 読書と研究 都丸十九一（群馬横野中学校教諭）・18～19  
教科書の扱い方 歴史教科書の在り方 和歌森太郎（東京教育大学教授）・20～22  
『日本の発展』を使用して 櫻井彦次（東京学芸大附属世田谷中学校教諭）・22～25  
「社会科歴史」の業績を回顧する 歴史教育界の先頭にあつて 編集部・26～30

テスト例題 「私たちの祖先は、どのようにくらしていたらうか」 「ヨーロッパ世界との交渉が始まり、封建社会の統一もすすんだ。」・・・31  
古代紀年論について 長野正・・・32～33  
歴史教室めぐり(2) 山手と下町渋谷外苑中・日本橋明石中 浜野浩一・・・34～38  
小学校の歴史について 丸山康夫(大阪市立南大江小学校教諭)・・・39～40  
編集後記 和歌森太郎・・・41

### 第3巻第8号 1953年8月

巻頭言 大人からか子どもからか 和歌森太郎・・・2  
夏休みの郷土史研究  
歴史教師の夏休み 青木重孝(新潟県青海町教育委員)・・・3～9  
夏休みと歴史クラブの活動 渡辺守順(滋賀県八日町市聖徳中学校教諭)・・・10～11  
町や村の歴史を書こう 村上正名(広島大学教育学部附属福山中学校教諭)・・・12～14  
実践の報告 中村一哉(岡山県福本中学校教諭)・・・15～16  
修学旅行の葉(その一) 鎌倉 水戸部正男(横浜国立大学学芸学部助教授)・・・17～21  
小田原の徳川家康(1) 水江漣子(東京文理科大学国史学研究室)・・・22～26  
元禄文化と化政文化 西山松之助(東京教育大学助教授)・・・27～32  
編集後記 森清・・・33

### 第3巻第9号 1953年9月

巻頭言 社会科歴史の再出発 和歌森太郎・・・2  
座談会 教材のよりよき理解のためにー鎌倉時代ー・・・3～11  
和歌森太郎／教官ABC(匿名)  
奥州に於ける一地方大名の形成 伊豆田忠悦(東京文理科大学特別研究生)・・・12～18  
紹介 理科と社会シリーズ都市 ピーチ著山崎俊雄訳 M生(水江漣子)(東京文理科大学国史学研究室)・・・19  
歴史の系統的学習ーいわゆる系統学習が行われていいものだろうかー 都築亨(名大附属中学校教諭)・・・20～23  
歴史教室めぐり(3) 倒叙法その後杉並区和田中学校 浜野浩一・・・24～26  
書評 中井信彦著 昔の農業 W・・・27  
小田原の徳川家康(2) 水江漣子(東京文理科大学国史学研究室)・・・28～32  
編集後記 森清・・・33

### 第3巻第10号 1953年10月

巻頭言 水害問題は歴史か地理か 和歌森太郎・・・2  
座談会 教育問題の焦点 社会科改造の問題を語る(NHK ラジオ第2、8月11日放送「教育問題の焦点」)・・・3～11  
海後宗臣(東京大学教育学部長) 和歌森太郎(東京教育大学教授)  
馬場四郎(東京教育大学教授) 金沢嘉市(港区立桜川小学校教諭)  
修学旅行の葉(その二) 大和・京洛の旅 木代修一(東京教育大学文学部教授)・・・12～20  
話題 黙阿弥の描いた白浪 KH生・・・21  
国際理解の教育 極東及び南太平洋諸国の歴史教育について 中村義太郎(静岡県治名郡新居(町)中学校教諭)・・・22～25  
社会科改訂に対する声明書・・・26～27  
社会科改訂の答申に関する第二回声明書・・・28～32

編集後記 森清・33

### 第3巻第11号 1953年11月

巻頭言 知識よりも問題意識から 和歌森太郎・2  
戦国時代の武家法制と社会 阿部猛（東京文理大国史研究室）・3～7  
地租金納と現物小作 福地重孝・8～11  
歴史的態度の形成について 藤原正教（大分大学附属中学校）・12～16  
修学旅行の栞(その三) 関東・東海の旅 渡辺一郎（東京教育大学助手）・17～26  
伊勢講 井上頼壽・27～29  
歴史教育における愛国心の問題 岩上進（浦和市立大原中学校）・30～32  
編集後記 森清・33

### 第3巻第12号 1953年12月

巻頭言 自由党の社会科観 和歌森太郎・2  
条約改正交渉の歩んだ道 下村富士男（名古屋大学）・3～8  
中世の農業と商 中井信彦（文部省調査員）・9～15  
倭寇について 宮原兎一（教育大教育学部）・16～18  
映画評 近代文学の映画化として 水江漣子（東京文理科大学国史学研究室）・19～22  
歴史教室めぐり(4) だろ沼での社会科大田区大森一中 浜野浩一・23～26  
寺子教訓書 樋山文次（鹿児島県曾於郡野方中学校）・27・32  
テスト例題・28～29  
封建社会の農村の実態ある村のある記録から 中村一哉（岡山県福本中学校教諭）・30～32  
編集後記 白石・33

### 第4巻第1号 1954年1月

これからの歴史教育 和歌森太郎（東京教育大学教授）・2～11  
元老西園寺公望 芳賀登（東京教育大日本史研究室）・11～15  
明治の青年 萩原龍夫（東京学芸大学助教授）・16～19  
歴史の話題 城の美しさ 水江漣子（東京文理科大学国史学研究室）・20～21  
歴史教室めぐり(5) 浅草の子台東区立蔵前中学校 浜野浩一・22～25  
大名の年賀状 富岡敏（長野県下高井郡平穏村）・26  
愛国とは我々の生活を愛すること 高野源治（石川県鹿島郡鹿西中学校教諭）・27～28  
修学旅行の問題点—奈良・京都の場合— 村上直（東京都目黒区第三中学校教諭）・29～30  
社会科歴史の実践—概要— 加茂茂（静岡県新居町立新居中学校教諭）・31～32  
編集後記 白石・32

### 第4巻第2号 1954年2月

座談会 教材のよりよき理解のために中世から近世へ・2～13  
渡辺一郎(司会)（東京教育大学研究室）／阿部猛（東京文理大国史研究室）  
伊豆田忠悦（東京文理科大学特別研究生）／島田次郎  
西垣晴次／浜野浩一  
社会科学習の諸問題 中学校から高等学校へ—政治・経済・社会の学習を中心として

瀧沢俊郎（東京都立日比谷高校教諭）・・・14～20  
歴史教育のゆくえ 酒井忠雄（大阪学芸大学助教授）・・・21～25  
書評 東京教育大学大塚史学会編 歴史教育講座 尾鍋輝彦（お茶の水大教授）・・・26～  
27  
テスト例題 近代社会・・・28  
系統的歴史学習の前提 都築亨・・・29～32  
編集後記 白石・・・32

#### 第4巻第3号 1954年3月

巻頭言 教職員の政治活動制限と社会科 和歌森太郎・・・2  
特集 社会科再出発  
中学校歴史教育計画の新構想 和歌森太郎（東京教育大学教授）・・・3～23  
座談会 コース・オブ・スタディーの中間発表をめぐって（1954年1月7日）・・・24～  
33、40  
浜野浩一（進行）／和歌森太郎（東京教育大学教授）  
梶哲夫（東京教育大附属中学教諭）／森杉多（東京都立白鷗高校教諭）  
飯塚彰（東京都立豊島高校教諭）  
古川清行（東京学芸大学附属竹早小学校教諭）  
中学社会科の歴史教材 編集部・・・34～35  
歴史の話題「叛乱」について M生（水江漣子）（東京文理科大学国史学研究室）・・・36  
～37  
テスト例題 日本史全般について・・・38～39  
編集後記 白石・・・41

#### 第4巻第4号 1954年4月

小学校より中学校の社会科へ 白井祿郎（川崎市教育研究所員）・・・2～7  
日本人種起源論 長野正・・・8～12  
安土桃山時代について 芳賀幸四郎（東京教育大学助教授）・・・13～17、12  
生徒の読後感 和歌森太郎著「日本のむかし」について 中村義太郎（静岡県浜名郡新居  
中学校）・・・18～19  
戦後ドイツの歴史教育（一） 森昭・・・20～27  
十六世紀におけるヨーロッパ人のアジア進出について 山本洋幸（東京教育大学附属  
高校）・・・28～32  
編集後記・・・32

#### 第4巻第5号 1954年5月

対談 コース・オブ・スタディーの中間発表をめぐって・・・2～10  
和歌森太郎（東京教育大学教授）／尾鍋輝彦（お茶の水大教授）  
古代における帰化人の系譜と地位 田名網宏（東京都立大学教授）・・・11～16、32  
弥生式文化の時代について—その時代区分上の一疑点— 岩上進（浦和市立大原中学  
校）・・・17～19  
指導記録 水田耕作本位の生活（登呂の指導を中心として） 中村義太郎（静岡県浜名  
郡新居中学校）・・・20～21  
戦後ドイツの歴史教育（二） 森昭（大阪大学助教授）・・・22～32

#### 第4巻第6号 1954年6月

- 対談 歴史教育の勘どころ—新教科書「日本と世界の歴史」を中心として・・・2～18  
尾鍋輝彦（お茶の水大教授）／和歌森太郎（東京教育大学教授）  
中学校社会科新教科書「日本と世界の歴史」編集の趣意—昭和三十年年度検定教科書・・・  
19～22  
図書紹介 和歌森太郎著「郷土のしらべ方」 港蘭子・・・23～25  
西洋の固有名詞について 尾鍋輝彦（お茶の水大教授）・・・26～27  
解説 法隆寺論争 編集部・・・28～31  
付録 世界史対照年表について 和歌森太郎・・・32

#### 第4巻第7号 1954年7月

- 中世から近代へ 富本健輔（徳島大学助教授）・・・2～7  
旅百姓と居付百姓 樫山文次・・・8～9、32  
文化史研究の再検討—真宗信仰と固有信仰との関連について— 桜井徳太郎（東京教育大助手・民俗学研究所員）・・・10～14  
質疑応答 編集部・・・15～19  
テスト例題・・・20～21  
対談 歴史教育の勘どころ(第二回)新教科書「日本と世界の歴史」を中心として・・・22～  
32  
和歌森太郎（東京教育大学教授）／尾鍋輝彦（お茶の水大教授）

#### 第4巻第8号 1954年8・9月

- 平安朝時代の女性 赤木志津子（お茶の水女子大学助教授）・・・2～6  
昭和三十年度の中学校社会科指導計画について 小林信郎（文部省事務官）・・・7～11  
平安京と菅原道具 和歌森太郎・・・12～14  
鎌倉佛教の特質 高木豊（大正大学助手）・・・15～19  
修学旅行の葉—その四— 東京 水江漣子（東京文理科大学国史学研究室）・・・20～22  
近松と町人意識の問題 中田易直（東京教育大学助手）・・・23～27  
質疑応答 編集部・・・28～29  
幕政の改革—とくに天保改革について— 田中彰・・・30～34  
対談 歴史教育の勘どころ(第三回)—新教科書「日本と世界の歴史」を中心として—・・・  
35～48  
和歌森太郎（東京教育大学教授）／尾鍋輝彦（お茶の水大教授）

#### 第4巻第9号 1954年10月

- 休刊の言葉 和歌森太郎・・・2  
書きなおされる美術史 木代修一（東京教育大学文学部教授）・・・3～10  
北条時頼 和歌森太郎（東京教育大学教授）・・・11～15  
明治の学者（科学） 福地重孝（東京教育大学講師）・・・16～19  
幕末の政治運動と国学 芳賀登・・・20～24  
修学旅行の葉5 奥の細道を行く—平泉 大島英介（岩手県一関高等学校）・・・25～29  
歴史の話題 刀伊の入寇 宮原兎一・・・30～31  
院の近臣 阿部猛（東京文理大 国史研究室）・・・32  
史評映画七人の侍余燼 水江漣子（東京文理科大学国史学研究室）・・・33  
座談会 南北朝をめぐって・・・34～44  
和歌森太郎／渡辺一郎／島田次郎／水江漣子／阿部猛